

12年前に 東北沿岸部をおそった“東日本大震災”

— 大切な命・大切な家族を守るために —

地域福祉研究所 主宰 本間照雄



今日、お話しする内容

- 1 12年前に起きた大きな災害！
- 2 私がみてきた被災地のようす
- 3 復興へのあゆみ
- 4 まとめにかえて（普段からできること）

1
月
1
9
日

日直
本間

12年前に起きた大きな災害

東日本大震災

(2011(平成23)年3月11日発災)

小学校5年生

2011年(平成23年)4月2日～2012年(平成24年)4月1日生まれ

小学校6年生

2010年(平成22年)4月2日～2011年(平成23年)4月1日生まれ



◇小学校5年生は、**生まれる1年前**に起きたできごとです。

◇小学校6年生は、**1歳の時**に起きたできごとです。

拡大地図を表示

函館

盛岡

仙台

新潟

金沢

本州

日本

東京

横浜

←日本海溝

東日本大震災の震源地
北緯38度6分12秒
東経142度51分36秒

最大震度7(富谷市は6弱)
津波の最大波高40.1m

Google

+

-

東日本大震災の特徴

地震（最大震度7）・津波（最大波高40.1m）・原子力発電所事故（放射能漏れ）の

三つの災害が重なった複合災害



- ・大規模化 : 16兆9千億円（内閣府推計）
- ・広域化 : 被災者は全国にちりぢりになって非難しました。
- ・長期化 : 12年経った現在でも避難生活を続けている家族がいます。

私が直接見てきた被災地の様子をお話しします

町が無くなりそうになった南三陸町

注意！

これからのスライドの中には、被災地の写真及び被災状況の写真が含まれています。強い精神的苦痛や呼び起こす危険があります。そのリスクがある方は、スライドを凝視しないようにして下さい。また、苦痛を感じた場合には、速やかに先生へ申し出て下さい。

◇平成十七年に志津川町・戸倉
が合併し、南三陸町が誕生。
志津川 入谷と歌津町

◇一般会計 歳入 約八十七億円

◇人口は約一万七千八百人



志津川湾

南三陸金華山国定公園



南三陸町 志津川湾



2001/05

出典：南三陸町「朝日航洋(株)提供航空写真」(2001/05撮影)

震災直後の志津川湾



2011 (平成23)年3月28日

津波襲来時の状況





①

志津川高校から漁港方向を向いて撮影(河北新報社提供)



志津川廻館(県営住宅)付近2011-03-11

②



③







被災直後の状況



志津川中心部（ありし日の姿） 志津川中学校から志津川湾を望む



被災翌日の志津川地区中心部（2011/03/12）午前



被災翌日の志津川地区中心市街地2011/03/12 13:26

東日本大震災 最大波高 15.5m



防災対策庁舎

屋上 12m →
(54人の人々が屋上に避難)
そのうち43人が亡くなった

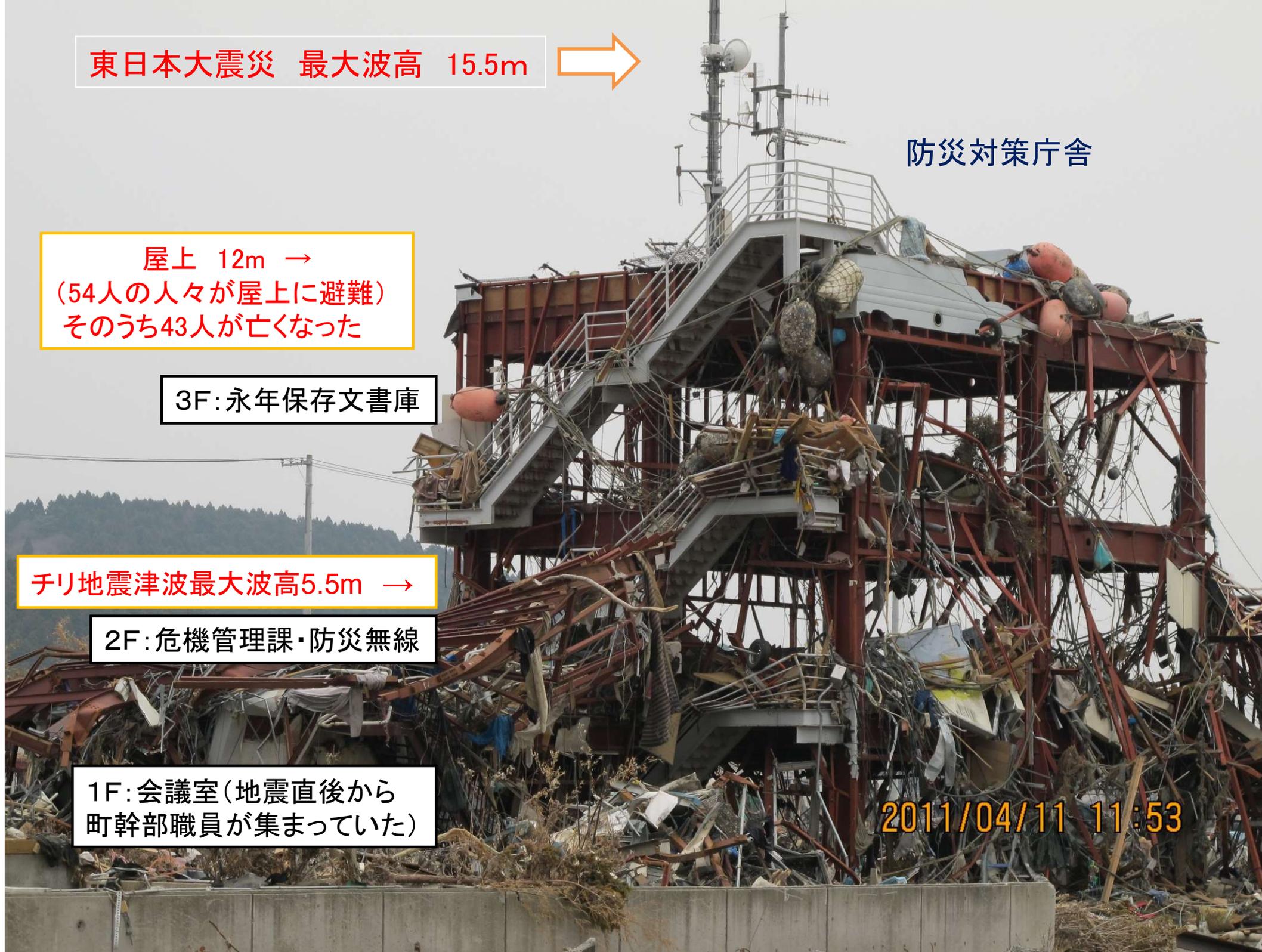
3F: 永年保存文書庫

チリ地震津波最大波高5.5m →

2F: 危機管理課・防災無線

1F: 会議室(地震直後から
町幹部職員が集まっていた)

2011/04/11 11:53









屋上まで津波をかぶった戸倉小学校(2011/06/26)





全壊した戸倉小学校体育館2011/06/26



復興へのあゆみ

南三陸町が頑張っている復興への歩み

多くの支援者に助けられた



2011/04/11 09:41



2014/05/05 生業支援(農地復旧)



南三陸町民を避難先（登米市）で支えてくれた小学生

はなれても ずっと 友だち！
米川小学校一同

南三陸町民も頑張った！



南三陸町民は、泣いてばかりではなかった。(志津川湾の初日の出)





滞在型支援員(中瀬町仮設)2013/01/15



サナライトセンターで記録に励む生活支援員(戸倉)2011/12/27

要援護高齢者

↓
(出る幕を用意)

↓
長生きの励み
共感・目標





平成二十四年度
日本認知症ケア学会 誌表認知症ケア賞
特別賞
南三陸町
被災者生活支援センター 殿
震災により混乱した地域における
迅速な支援組織の構築は困難かつ
苦難な活動であることは想像に難く
ありません
貴センターが行った介護経験者の確保・
派遣および相談場所の設置等の連帯の
活動は元々のわが国が目指す認知症の
人とその家族への震災対応に対する
ひとつの方向性を示すものです
ここにその功績を讃え本賞を贈ります
平成二十四年五月十九日
日本認知症ケア学会
理事長 本間昭



小学生も仮設住宅での生活の様子をビデオで伝えた(2012/08/26)

南三陸町の将来をみんなで考えた

2017-05-21福祉モール住民勉強会





佐藤
京子

小野寺
のぶ子

南三陸町民を励まし、勉強した大学生







南三陸町長から直接お話を聞いた(2019/08/18)





石巻市立 大川小学校





大川小学校では、74人の児童、10人の教職員が亡くなりました。



南三陸町民のがんばりを本にした大学生





お知らせ
2014年10月15日
2014年10月16日
2014年10月17日
2014年10月18日
2014年10月19日
2014年10月20日
2014年10月21日
2014年10月22日
2014年10月23日
2014年10月24日
2014年10月25日
2014年10月26日
2014年10月27日
2014年10月28日
2014年10月29日
2014年10月30日
2014年10月31日

アカリマ

アカリマ





支え手になったあの日から
地域をみまもる支援員の語り



宮城県サポートセンター支援事務所
東北大学社会学部研究室生活支援員聞き書きプロジェクト
東北学院大学地域共生推進機構

まとめにかえて(普段からできること)

知ることからはじまる、始めの一步

だれもができる「災害への備え」

1 **知ること** 何があったのかを、周りの人から教えてもらいましょう。

→災害は突然やって来ます。その時、「これは大変なことが起きている」とわかり、周りの人に助けを求められます。

2 **あいさつをする** 近所みなさんに、登校時や下校時にあいさつをしましょう。

→災害のときやふしんな人に出会ったとき、近所の人に助けを求められます。

3 **小さなお手伝いをする** 自分を守り、ご近所の人を助ける力が身につきます。

→災害の時は、いつもあるものが手に入らなくなります。このため、まわりにあるものを工夫して使ったり、おかたづけをするだけでも、大人の人はとても助かり、みんなで仲良く不自由な生活を乗り越えることができます。

その上で、何よりも大切な事は、

大人の力をかりりながら、

自分の命を大切にす

自分の命は自分で守れるようにする

このためには、

いっぱいお話を聞き、いっぱい自分の考えを話し合しましょう。

次は、増田先生の話です。